

西日本唯一の 段ボール刃物専門メーカー



鋸目加工コルゲートカッター

スロッター上刃物

超硬スリッター

サクット・スパット

ライナーカット刃物

パンチ刃物

段ボール用機械部品

プロフィット



近畿刃物工業株式会社



一貫工程で ユーザーの要望に応える

工業用刃物メーカーは多々あれど、段ボール業界に特化した刃物メーカーは全国に数えるほどしかない。そのうちの一家が近畿刃物工業である。しかも西日本ではここだけだ。競争は少ないとも言えるが、それにあぐらをかかず、同社は「一貫生産」「常識破りの短納期」を武器に売上を伸ばしている。

刃物の世界は、納期を守るのが難しいという。成形、熱処理、研磨、刃付け等30を超える工程があるため、一つの刃物を製造するのに1〜2か月はかかるというのが業界の常識だった。しかし、同社はそこから一歩抜け出し、短ければ1週間で製品を仕上げる実力を有している。

「材料である鋼板材を常に持ち、全工程を自社で一貫して行っている。同業メーカーはほかにありません。だから短納期が可能なのです。当社では創業当初から段ボールに特化していますが、広く浅くやるより、その方がホンモノを追求できますから」と阿形清信社長は話す。刃物の交換、

修理等のメンテナンスにも豊富な経験と技術で対応し、サポート体制の充実にも力を入れてきた。あらゆる物流に段ボールが使われる時代、段ボールを裁断・加工する刃物のニーズが絶えることはない、と状況判断している。

個性を活かした人材育成で 技術力を向上

同社を支えている要素は、三つある。一つは、前述のような自社一貫生産体制。二つ目は、生産性を上げる最新鋭設備。平成19年には鋼板材を3分間の早さで切り抜くレーザー加工機を導入。これによって工程数が減り、期間を大幅に短縮できている。そして三つ目が「人育て」。まだまだ人の手技が必要とされる分野でもあり、社員の技術向上が何より重要だ。「特に研磨は、誰にでもできるものではない。技能が問われる部分です」。阿形社長は、社員の技術を上げるため「社内技能大会」を実施し、社員のモチベーションを上げた。さらに自己評価表、半年単位の目標設定も導入。社員一人ひとりの強み、弱みを明らかにすることで、適材適所の人材活用を可能にした。社員それぞれが経験を持ち寄ることで、激動する社会情勢に対応できる知恵が生まれると考えている。

今は、製品精度をさらに向上するための新しい熱処理方法も開発中である。他社に先んじた技術開発にも積極的だ。「成形、熱処理、研磨の技をもっと高めて、他の分野に

も進出していききたいですね」と阿形社長は語る。

近畿刃物工業株式会社

Company Profile

住所 / 〒570-0003
大阪府守口市大日町3-33-12
設立 / 昭和35年6月
資本金 / 1,000万円
従業員 / 30名 (平成21年1月現在)
TEL / 06-6901-1221
FAX / 06-6905-9713



阿形清信さん
代表取締役社長

主な事業内容

紙器、段ボール用刃物設計・製作・販売・修理、超硬刃物、関連機械部品の製作・販売、オーダーメイド刃物の製作等



ISO 9001

大阪 20

<http://www.kinkihamono.co.jp/>